
文豪 お墓まいり ツアー

10月8日（土）



準備

- ①山崎ナオコーラさんの「文豪お墓まいり記」を読む
- ②日付を決める => 10月8日（土）
- ③誰のお墓参りに行くかを決める => 本の中から2霊園、4人の文豪
- ④参加者を募る => 3人

準備をしておけばよかったもの

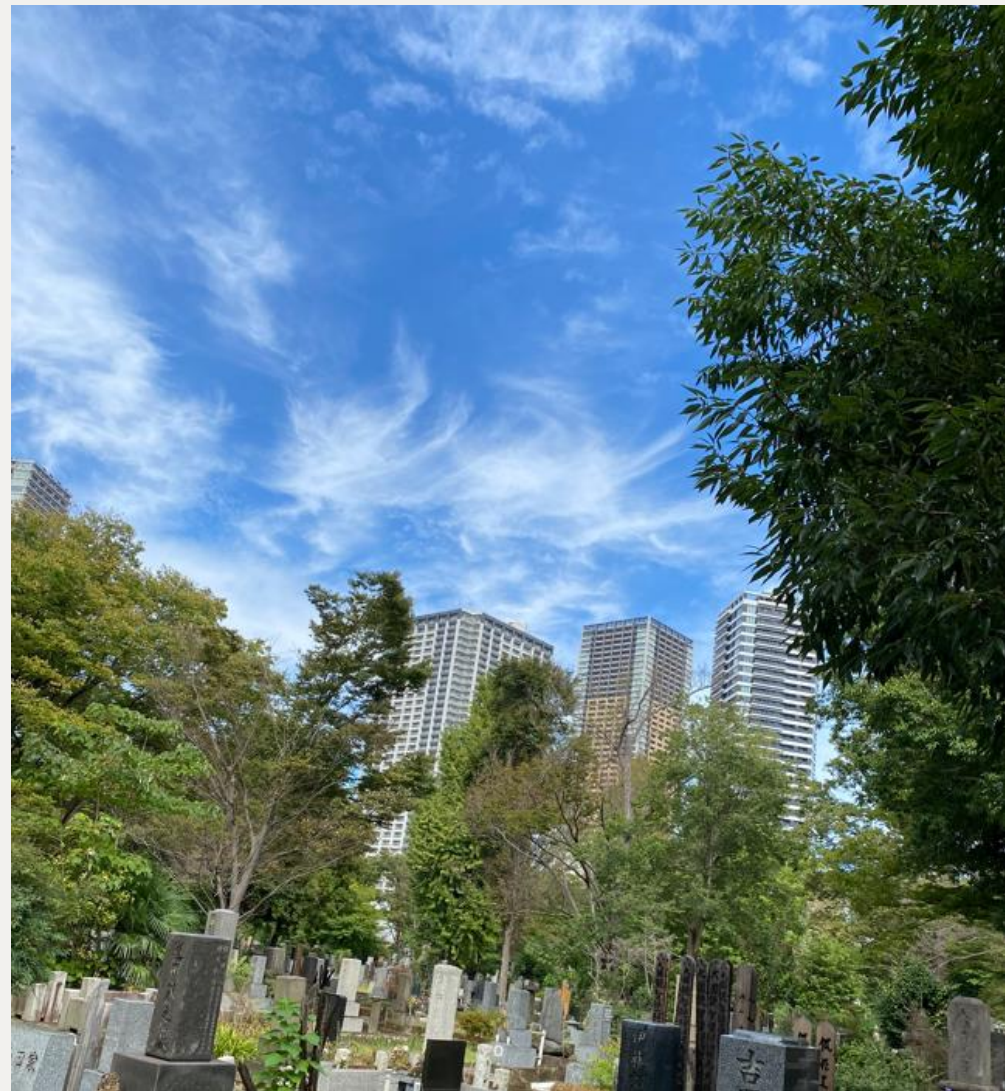
- ①選んだ文豪のことを調べておくこと
=> 本名がわからないとお墓が見つからないということがありました
- ②霊園のことを調べておくこと
=> 他にもたくさん文豪の墓がありました
- ③お花、お線香、ライターは買って持っていくこと
=> 近くで買うと高いです



当日の発見

- ① 同じ霊園に沢山の文豪たちが眠っていた
- ② 全部で12Kmくらい歩きました
- ③ 桜・紅葉の時期はもっときれいだろうと思いました
- ④ どうも、デートスポットであることがわかりました

- ⑤ 途中でお花、お線香をあげるのが面倒くさくなりました
- ⑥ 蚊に刺されました
- ⑦ 全部で16人のお墓にお参りしました
- ⑧ 文豪でない著名人もついでにお墓参りしました



雑司ヶ谷霊園

JR池袋駅から徒歩15分

- 島村抱月
- 武久夢二
- 夏目漱石
- 泉鏡花
- 小泉八雲
- 永井荷風
- サトーハチロー
- いずみたく

東京都立雑司ヶ谷霊園MAP

～霊園は故人が眠る慰霊の場所です。節度を持った行動をお願いします～

享楽に生きた反骨。永井荷風 ながいかふう (1879～1959)
1-1号7側3番
墓を作るなら「浄閑寺に」と言っていた荷風の墓が父久一郎(禾原・かげん)と並んでいる。時代に背を向けて江戸趣味を追い、上田敏の言う「真の享楽主義者」としての生を貫いた。「柳橋新話(りゅうきょうしんし)」の●成島柳北を深く慕った。

日本びいきのコスモポリタン。小泉八雲 こいずみやくも (1850～1904)
1-1号8側35番
父はアイルランド人、母はギリシャ人。アメリカで新聞記者などをしたあと来朝して帰化。東大講師時代、哲学の講師●ケールと同僚であった。講師辞任の時、小説家の●武林無想庵(たげばやしむそうあん)らが留任運動をした。

開明派の「最後の幕臣」。小栗忠順 おぐりただまさ・上野介 (1827～1868) 1-4号B5側35番
「明治の父」と司馬遼太郎が言う、幕末の開明派の幕臣。「日米修好通商条約」批准で渡米。その随行艦「威臨丸」には勝海舟、福沢諭吉ら。中津(ジーン)万次郎が通訳をした。●岩瀬忠義(いわせただない・肥後守)も開明派の幕臣。

心やさしい言語学者。金田一京助 きんだいちきょうすけ (1882～1971) 1-22号5側24番
アイヌ語また、アイヌの叙事詩「ユウカラ」の発掘や言語研究で業績を残す。若い日に新詩社の「明星」に加わり短歌に親しむ。中学の後輩石川啄木を短歌に誘い、物心両面で支えた。この「明星」には一時、歌人●窪田空穂も加わっている。

誠実に愛し、尽くした。泉鏡花 いずみきょうか (1873～1939) 1-1号13側33番
10歳で失った母の跡を生運通葛し、師の尾崎紅葉を人格化するほどに仕えた。芸者(本名すず)との結婚を紅葉に反対されたいきさつが小説「歸系図(おんけいず)」に。新派の舞台で多くの人の涙を誘った。名優●喜多村線郎もここに。

理想を教育・出版で。羽にもと子 はにもとこ (1873～1957) 1-1号10側42番
キリスト教徒として、西油染に新しい教育を目指して自由学園を創立。当時の校舎、明日館(みょうにちかん)はフランク・ロイド・ライトの設計で国の重要文化財。雑誌「婦人之友」を創刊。彼女の学んだ「明治女学校」には●大塚楠緒子(おおくなくすおこ)も通い、女医第一号の●荻野吟子はその学校の校医。哲学者・教育者の●天野貞祐は、獨逸大学創設者。自由学園理事長も務めた。

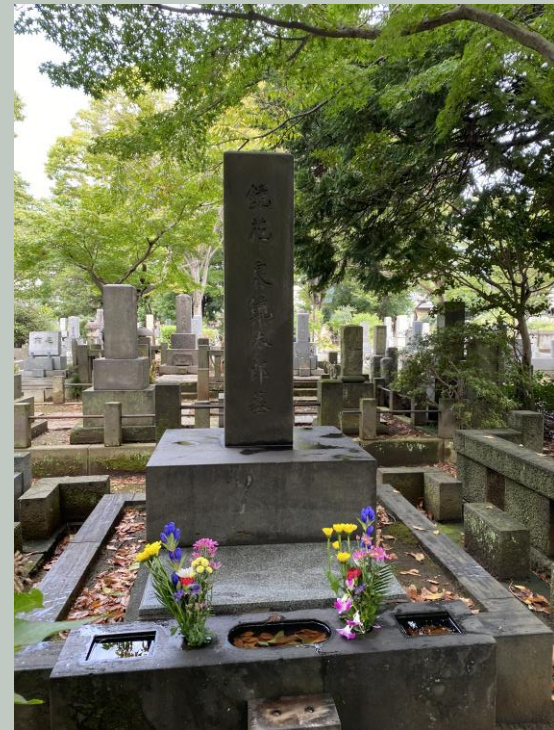
あふれる詩の才能。サトウハチロー さとうはちろう (1903～1973) 1-5号25側25番
戦前の「二人は若い」、戦後の「リンゴの唄」の流行歌で圧倒的な人気を生んだ詩人。若い日の無頼を心配した小説家の父紅緑は、現在の豊島区上池袋三丁目二世帯を持たれた。ラジオドラマ「君の名は」の脚本家栗田一夫も同居。

松井須磨子と芸術座。島村抱月 しまむらほうげつ (1871～1918) 1-16号2側12番
早大教授。自然主義文学を唱導。松井須磨子と芸術座を興す。「早稲田の二秀才」と並び称された●網島梁川、親友の●金子馬治(哲学者)、須磨子と巡って対立した●東儀鉄笛(早大校歌の作曲者)。竹久夢二の才能を愛した。

漂流で運をつかむ。中濱(ジョン)万次郎 なかはまじろう (1827～1898) 1-15号19側1番
土佐(高知県)中浜村の出身。14歳での出立で遭難し、アメリカ船に助けられ米国に渡る。米国で航海術などを学び、その新知識と英語力で重用され、通訳としても活躍。

大正ロマンの叙情画。竹久夢二 たけひさゆめじ (1884～1934) 1-8号9側32番
「大正ロマン」を代表する画家であり詩人。「夢二式」の美人画や「宵待草」などの叙情的な詩歌が大流行。若い日に雑司ヶ谷に住む。島村抱月に目をかけられ、また羽にもと子の「婦人之友社」で絵画主任、さし絵を描く。墓の文字は画家の有島生馬。

明治期、最高的人气作家。夏目漱石 なつめそうせき (1867～1916) 1-14号1側3番
当時の雑誌「太陽」が募集した文化人的人气投票で毎年第一位。「こころ」に雑司ヶ谷霊園を描く。小泉八雲が東大を去った後の東大講師。親友の●中村是公(東京市長)や、大塚保治と妻の●楠緒子、門下の●森田華平、敬愛した●ケールも。



谷中霊園

JR日暮里駅から徒歩1分

- 獅子文六（岩田）
- 色川武大・阿佐田哲也
- 徳川慶喜
- 宮城道雄
- 渋沢栄一
- 円地文子

東京都谷中霊園案内図

谷中霊園のあらまし

谷中霊園は、主として谷中天王寺の敷地等を東京府が引き継ぎ、明治7年9月1日谷中墓地として開設したものである。その後、明治22年東京市に移管、昭和10年には谷中霊園と改称現在に至っている。

園内は、東側が全体に傾斜しているほかは平坦である。また墓域は点在する古木や中央通路の桜並木とあいまって比較的静寂である。春には桜並木が美しく、多くの人出がある。

付近には寺院も多く寛永寺や天王寺の墓地と入り組んでおり、霊園全体の形は複雑になっている。幸田露伴の小説で有名な谷中天王寺の五重の塔跡地が霊園の中央にある。この跡地のほか3か所の墓所が都の文化財に指定されている。(裏面※印)

なお、昭和32年都市計画公園として計画決定されたため、昭和35年8月以降返還墓所等の再貸付は行っていないが、平成19年度から47年ぶりに再開され、現在、霊園再生事業が実施されている。

面積 102,537㎡

開園日 明治7年(1874年)9月1日

施設の種類	使用者数	埋葬体数
一般埋葬施設	6,396人	52,774体
立体埋葬施設	1,132人	3,578体

(令和2年1月1日現在)



